

専攻科芸術表現専攻授業科目

グローバル特論	162
Global English	163
地域課題解決研究Ⅰ (PBL)	164
地域課題解決研究Ⅱ (PBL)	165
リーダーシップ論	166
デザイン表現Ⅰ	167
デザイン表現Ⅱ	168
デザイン研究Ⅰ	169
デザイン研究Ⅱ	170
Webデザイン特論	171
演奏実技研究Ⅰ	172
演奏実技研究Ⅱ	173
楽曲分析	174
演奏特論	175
即興演奏研究	176
メディアアート研究	177
修了研究	178

学修成果（8つの力）

本学は、学生が卒業までに獲得することが期待される知識、技術、態度などの能力を「学修成果」として、次のように表現しています。

(1)態度・志向性	①勤労観	働く意義を理解し、リーダーシップをもって物事に取り組むことができる。
	②リーダーシップ	
(2)汎用的能力	③教養	社会人にふさわしい教養やコミュニケーション能力を身につけている。
	④コミュニケーション能力	
(3)専門的知識・技能	⑤専門分野の知識・技能	デザイン・ビジネス・音楽分野の知識・技能を身につけ、新しい価値を創造できる。
	⑥創造力	
(4)総合的な学習経験と創造的思考力	⑦課題解決力	課題を発見して解決する力や、広い視野で変化に適応する力を身につけている。
	⑧変化への適応力	

I. 修了認定・修了証書授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

以下に示す目標とする学修成果を身につけ、所定の在学期間を満たし、基準となる単位を修得した者に対して、修了を認定し、修了証書を授与します。

- (1) 働く意義を理解し、リーダーシップをもって物事に取り組むことができる。
- (2) 社会人にふさわしい教養やコミュニケーション能力を身につけている。
- (3) デザイン・ビジネス・音楽分野の知識・技能を身につけ、新しい価値を創造できる。
- (4) 課題を発見して解決する力や、広い視野で変化に適応する力を身につけている。

科目名	グローバル特論 (10単位)	講義	専攻科 芸術表現専攻	前期	担当者	小野 隆洋 (実務経験)
ナンバリングコード	JA-L301-000					
修了要件	選択					
授業のテーマ	海外での研修を通じたグローバル社会で求められるコミュニケーション能力の育成					
授業概要	この授業は事前指導、海外研修、事後指導で構成されています。英語運用能力と同時に発信力、傾聴力、柔軟性、規律性、そしてストレスコントロール力を養います。					
達成目標	学修成果:コミュニケーション能力、専門分野の知識・技能、創造力、リーダーシップ、変化への適応力				科目 DP : (2)	
		DP 番号	(1)	(2)	(3)	(4)
	1. 海外研修の目的と意義を説明することができる。		○		◎	
	2. 英語で積極的にコミュニケーションを図ることができる。			◎		○
	3. 他の人と協力して課題に取り組むことができる。			○		◎
4. 研修で学んだ内容を英語でプレゼンテーションすることができる。			◎	○		
履修条件・注意事項	海外研修を成功させるためには事前の準備が大切です。事前指導での準備状況が不十分な場合は単位が認定されないことがあります。単位認定の対象となる海外研修プログラムについては、授業担当者に確認してください。また渡航前の手続きが必要です。事前指導を受けずに海外で研修を受けても単位認定は行われませんので注意してください。 授業の実施方法:①面接授業のみ					
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業についての説明 (目標 1,2,3) 2. 事前指導の演習①(目標 1,2,3) 3. 事前指導の演習②(目標 1,2,3) 4. 事前指導の演習③(目標 1,2,3) 5. 事前指導の演習④(目標 1,2,3) 6. 海外研修(研修先は各学生が決定する)(目標 1,2,3) 7. 海外研修(研修先は各学生が決定する)(目標 1,2,3) 8. 海外研修(研修先は各学生が決定する)(目標 1,2,3) 9. 海外研修(研修先は各学生が決定する)(目標 1,2,3) 10. 海外研修(研修先は各学生が決定する)(目標 1,2,3) 11. 海外研修(研修先は各学生が決定する)(目標 1,2,3) 12. 海外研修(研修先は各学生が決定する)(目標 1,2,3) 13. 研修内容報告(プレゼンテーション)・質疑応答(目標 1,2,3,4) 14. 研修内容報告(プレゼンテーション)・振り返り(目標 1,2,3,4) 15. まとめ・到達目標の確認(目標 1,2,3,4) 					
アクティブ・ラーニング	グループワークと発表を中心とした授業を行う。					
成績評価基準	態度と意欲を重視した評価を行う。 ①事前・事後指導への取組:(30%) ②レポート:(40%) ③プレゼンテーション:(30%)					
フィードバックの方法	事前・事後指導は受講生の発表等が中心となります。 授業担当者は受講生のパフォーマンスの向上を促すためのフィードバックを文字モードまたは音声モードで提供します。					
時間外の学習について	予習:事前研修内の指示に従って予習に取り組んでください。(各回 90 分程度) 復習:授業内で授業後の課題が出されます。次の授業までに準備しておいてください。(各回 90 分程度)					
教材にかかわる情報	授業内で必要な資料を配布する。					
担当者からのメッセージ等実務経験について	政府派遣の在外研修員経験:海外での生活、外国人とのコミュニケーションについて講義を行います。					

科目名	Global English (2単位)	講義	専攻科 芸術表現専攻	前期	担当者	尊田 望 (単独)
ナンバリングコード	JA-L311-000					
修了要件	選択					
授業のテーマ	持続可能な開発目標(SDGs)・教育者に求められる英語運用力					
授業概要						
達成目標	学修成果:コミュニケーション能力、教養、リーダーシップ、変化への適応力	科目 DP : (2)				
		DP 番号	(1)	(2)	(3)	(4)
	1.世界中の多様な人たちの話す英語に慣れる。			◎		
	2.間違いを恐れずに進んで英語を使い、コミュニケーションを取ろうとする。		○	◎		
3.与えられたテーマについて他者と会話や意見交換ができる。		○	◎		○	
履修条件・注意事項	授業の実施方法:①面接授業のみ					
授業計画	1. Introduction & BTS (pop star) (目標 1,2,3) 2. Ichiro, Shohei Otani & Hideki Matsui (sports hero) (目標 1,2,3) 3. Malala Yousafzai (education) (目標 1,2,3) 4. Jack Ma (success & failure in life) (目標 1,2,3) 5. Mahatma Gandhi & Martin Luther King, Jr. (non-violent protest) (目標 1,2,3) 6. Emma Watson, Indira Gandhi & Benazir Bhutto (gender equality) (目標 1,2,3) 7. Audrey Hepburn & Arnold Schwarzenegger (movie hero) (目標 1,2,3) 8. Mid-term test (目標 1,2,3) 9. Barak Obama & Muhammad Ali (social justice & change) (目標 1,2,3) 10. Nelson Mandela & Desmond Tutu (freedom)(目標 1,2,3) 11. Japanese business people (business)(目標 1,2,3) 12. Helen Keller & Stephen Hawking (tests and difficulties in life)(目標 1,2,3) 13. Oprah Winfrey & Ellen Degeneres (TV personality) (目標 1,2,3) 14. Dalai Lama & Mother Teresa (happiness/emotion/service)(目標 1,2,3) 15. Review & summary & extra lesson (Japanese writers) (目標 1,2,3)					
アクティブ・ラーニング	ペアワークまたはグループワーク及び発表を中心とした授業を行う。					
成績評価基準	評価の方法:授業演習 25%、プレゼンテーション 25%、宿題 25%、期末試験 25% 評価の基準:知識・理解・思考・態度・技能・表現等の観点による。					
フィードバックの方法	授業開始時に前回の授業の振り返りを行う。					
時間外の学習について	予習:授業内で指定された課題をした上で授業に臨むこと。(各回 90 分程度) 復習:授業内で発表した内容や学んだことについて振り返りしておくこと。(各回 90 分程度)					
教材にかかわる情報	英語はグローバルなコミュニケーションのツールです。世界中の多様な背景の人たちが使っています。誰でも参加できる世界です。恐れずに楽しく使ってみましょう。注:対面授業を基本としますが、状況によっては遠隔授業を実施する場合がありますので、念のためにネットワーク環境を整えておいてください。					

科目名	地域課題解決研究 I (PBL) (2単位)	演習	専攻科 芸術表現専攻	前期	担当者	長田 和美(実務経験) 澄重 成記(実務経験) (複数)	
ナンバリングコード	JA-S361-000						
修了要件	選択						
授業のテーマ	地域企業や自治体が抱える課題に対してグループで解決策を提案し、解決に向けて実践する。						
授業概要	課題の本質を捉え、課題に対する解決策をグループで発案し、トライアルを行う。 課題発見力、課題解決力、合意形成力、リーダーシップを養う。						
達成目標	学修成果: リーダーシップ、創造力、課題解決力、変化への適応力					科目 DP : (4)	
		DP 番号	(1)	(2)	(3)	(4)	
	1. 企業が抱える課題を正しく把握することができる。					◎	
	2. 課題解決に向けたアイデアを発案できる。					◎	
	3. アイディアを具体化し、行動計画を立案できる。					◎	
	4. 予備実験・調査によりアイデアの妥当性を確認できる。					◎	
5. リーダーとして他者への動機づけを行い、多様性を理解して合意形成ができる。			○		◎		
履修条件・注意事項	授業の実施方法: ①面接授業のみ						
授業計画	1. PBL の意義 (目標 1、5) 2. 課題理解①現状理解 (目標 1、5) 3. 課題理解②課題理解 (目標 1、5) 4. 課題理解③情報分析 (目標 1、5) 5. 目的・目標の定義 (目標 1、5) 6. 解決策の検討①アイデア発案(発散) (目標 2、5) 7. 解決策の検討②アイデア整理(収束) (目標 2、5) 8. アイディアの具体化 (目標 3、5) 9. 計画立案 (目標 3、5) 10. 実施準備 (目標 3、5) 11. 予備実験・調査 (目標 4、5) 12. 予備実験・調査のデータ分析 (目標 4、5) 13. 予備実験・調査のまとめ (目標 4、5) 14. プレゼンテーション準備 (目標 4、5) 15. プレゼンテーション (目標 4、5)						
アクティブ・ラーニング	ペアワーク、グループディスカッション、プレゼンテーション						
成績評価基準	①授業内レポート(40%): 意欲・関心を測定 ②レポート課題(30%): 知識・理解、思考・判断を測定 ③プレゼンテーション(30%): 知識・理解、思考・判断、技能・表現を測定						
フィードバックの方法	課題を返却						
時間外の学習について	予習: 課題に関連する文献、時事ニュースを調査(各回 90 分) 復習: 授業後に各自の活動を振り返り、次回のアクションプランを策定する(各回 90 分)						
教材にかかわる情報	テキスト: 特になし 参考書: 特になし 参考資料: 特になし						
担当者からのメッセージ等実務経験について	企業経験を活かして、社会人感覚と実践力を育成する授業を行います。						

科目名	地域課題解決研究Ⅱ (PBL) (2単位)	演習	専攻科 芸術表現専攻	後期	担当者	長田 和美(実務経験) 澄重 成記(実務経験) (複数)	
ナンバリングコード	JA-S362-000						
修了要件	選択						
授業のテーマ	地域企業や自治体が抱える課題に対してグループで解決策を提案し、解決に向けて実践する。						
授業概要	前期に実施した予備実験・調査の結果に基づき、課題と目標を再定義し、解決に向けて実践する。 課題発見力、課題解決力、合意形成力、リーダーシップを養う。						
達成目標	学修成果:リーダーシップ、創造力、課題解決力、変化への適応力					科目 DP : (2)	
		DP 番号	(1)	(2)	(3)	(4)	
	1. 予備実験・調査に基づいて、課題と目標を再定義できる。					◎	
	2. アイディアを具体化し、行動計画を立案できる。					◎	
	3. 解決策を実行できる。					◎	
	4. 課題解決プロセスを整理し、プレゼンテーションできる。					◎	
5. リーダーとして他者への動機づけを行い、多様性を理解して合意形成ができる。			○		◎		
履修条件・注意事項	授業の実施方法:①面接授業のみ						
授業計画	1. 課題と目標の再定義 (目標 1.5) 2. 解決策の検討①アイデア発案(発散) (目標 2.5) 3. 解決策の検討②アイデア整理(収束) (目標 2.5) 4. アイディアの具体化 (目標 2.5) 5. 計画立案 (目標 2.5) 6. 実施準備 (目標 3.5) 7. 実施準備 (目標 3.5) 8. 実施準備 (目標 3.5) 9. 実施準備 (目標 3.5) 10. 実験・調査等の実施 (目標 3.5) 11. 実験・調査等のデータ分析 (目標 3.5) 12. 実験・調査等のまとめ (目標 3.5) 13. 課題解決プロセスの整理 (目標 4.5) 14. 最終プレゼンテーション準備 (目標 4.5) 15. 最終プレゼンテーション (目標 4.5)						
アクティブ・ラーニング	ペアワーク、グループディスカッション、プレゼンテーション						
成績評価基準	①授業内レポート(40%):意欲・関心を測定 ②レポート課題(30%):知識・理解、思考・判断を測定 ③プレゼンテーション(30%):知識・理解、思考・判断、技能・表現を測定						
フィードバックの方法	課題を返却						
時間外の学習について	予習:課題に関連する文献、時事ニュースを調査(各回 90分) 復習:授業後に各自の活動を振り返り、次回のアクションプランを策定する(各回 90分)						
教材にかかわる情報	テキスト:特になし 参考書:特になし 参考資料:特になし						
担当者からのメッセージ等実務経験について	企業経験を活かして、社会人感覚と実践力を育成する授業を行います。						

科目名	リーダーシップ論 (2単位)	講義	専攻科 芸術表現専攻	後期	担当者	原田 剛 (単独)
ナンバリングコード	JA-S363-000					
修了要件	選択					
授業のテーマ	グローバル化・ICT・AIなど急激に社会が変化する中、組織のトップに求められる知識や技術、資質について考察し、リーダーシップをとれる力を身につける。					
授業概要	具体的な人物を取り上げ、彼らがどのようにリーダーシップを発揮し困難を克服したかを検証することで、リーダーシップの本質について考える。					
達成目標	学修成果:リーダーシップ、コミュニケーション能力、課題解決力、変化への適応力	科目 DP : (1)				
		DP 番号	(1)	(2)	(3)	(4)
	1. リーダーの役割を理解する。			◎		
	2. 歴史上の人物が、どのようにして課題を克服したかについて理解する。			◎		
	3. 企業経営者が、どのような理念を持ち課題に取り組んできたかを理解する。			○	◎	
	4. グローバルな社会で求められるリーダーの資質について理解する。			◎	○	
5. 自己の確立を図り、意欲的に社会の課題に取り組む態度を身につける。		◎	○		○	
履修条件・注意事項	授業の実施方法:①面接授業のみ					
授業計画	1. リーダーシップ論を学ぶ意義 (目標 1) 2. リーダーとは (目標 1) 3. リーダーシップとフォロワーシップ (目標 1) 4. リーダーとファシリテーション (目標 1) 5. リーダーとコミュニケーション (目標 1) 6. リーダーと人材育成 (目標 1) 7. リーダーと段取り力 (目標 1) 8. オーセンティック・リーダーシップ (目標 1.5) 9. 歴史に学ぶ①日本のリーダー (目標 2) 10. 歴史に学ぶ②日本のリーダー (目標 2) 11. 歴史に学ぶ③日本のリーダー (目標 2) 12. 歴史に学ぶ④日本のリーダー (目標 2) 13. 企業経営とリーダーシップ (目標 3) 14. グローバルリーダー (目標 4) 15. アントレプレナーシップ (目標 4.5)					
アクティブ・ラーニング	グループワーク、プレゼンテーション					
成績評価基準	①各回のレポート(20%): 関心・意欲を測定 ②プレゼンテーション(40%): 関心・意欲、知識の理解度、思考力・表現力を測定 ③調査レポート(40%): 知識の理解、思考力・表現力・判断力を測定					
フィードバックの方法	授業の教材として各自のレポートを使い討議します。					
時間外の学習について	予習: 授業のテーマについて予習(各回 90 分程度) 復習: レポート作成(各回 90 分程度)					
教材にかかわる情報	テキスト: 特になし 参考書: 特になし 参考資料: 『代表的日本人』内村鑑三(岩波文庫)『日本を作った12人』堺屋太一(PHP 新書) 『リーダーシップの本質』堀紘一(ダイヤモンド社) 『初めて部下を持つ人のために リーダーシップ 10 のルール』マリーン・カロセリ(Discover) 『オーセンティック・リーダーシップ』ハーバード・ビジネス・レビュー編集部(ダイヤモンド社)					
担当者からのメッセージ等実務経験について	リーダーシップの第一歩は、何事にも率先して取り組むことです。若い時の苦労は買ってでもなさいとよく言われてきました。					

科目名	デザイン表現 I (2単位)	実技	専攻科 芸術表現専攻	前期	担当者	渡山 賢二(実務経験) (単独)	
ナンバリングコード	JA-S321-000						
修了要件	選択						
授業のテーマ	イラストデザインや多様な表現方法を実技(画材は要相談)を通して習得する。						
授業概要	基礎デッサン力(観察力・描写力)をベースに、多様な表現方法を実践を通して体験し、自己表現の探求方法を 実践・習得する。(表現は基本平面(アナログ)※デジタル表現は要相談)						
達成目標	学修成果:専門分野の知識・技能、創造力、リーダーシップ、変化への適応力					科目 DP : (3)	
		DP 番号	(1)	(2)	(3)	(4)	
	1. デザインとアートの理解			◎			
	2. 自己表現の探求方法の習得				◎	○	
	3. 様々な表現方法の実践とその習得				◎	○	
	4. 自分の制作物の客観的な意見を説明できる。		◎	○			
5. 期限内での課題制作の提出		○	◎		○		
履修条件・注意事項	使用画材は各自持参(着彩・鉛筆デッサン・木炭デッサン等)。デジタルツールの場合は要相談(紙など各自購入) 授業の実施方法:①面接授業のみ						
授業計画	1. デザインとアートについて(目標 1,2) 2. 課題制作① 課題理解・エスキース・下書き(目標 3,4,5) 3. 課題制作① 制作・課題提出(目標 3,4,5) 4. 様々な表現方法について(目標 1,2) 5. 課題制作② 課題理解・エスキース・下書き(目標 3,4,5) 6. 課題制作② 制作・課題提出(目標 3,4,5) 7. 課題制作③ 課題理解・エスキース・下書き(目標 3,4,5) 8. 課題制作③ 制作・課題提出(目標 3,4,5) 9. 課題制作④ ②と③の講評、制作④の課題理解・エスキース・下書き(目標 3,4,5) 10. 課題制作④ 制作・課題提出(目標 3,4,5) 11. 課題制作⑤ 課題理解・エスキース・下書き(目標 3,4,5) 12. 課題制作⑤ 制作・課題提出(目標 3,4,5) 13. 課題制作⑥ ④と⑤の講評、制作⑥の課題理解・エスキース・下書き(目標 3,4,5) 14. 課題制作⑥ 制作・課題提出(目標 3,4,5) 15. 総合講評会						
アクティブ・ラーニング							
成績評価基準	①制作課題の評価(60%):期限内提出厳守、制作課題の完成度 ②授業への取り組み(40%):授業内レポート提出・その内容や制作への取組						
フィードバックの方法	講評・総合講評会での口頭でのフィードバック、資料配布						
時間外の学習について	予習:自分の好きな作品(ジャンル問わず)、制作したいものを答えられるようにする。(各回 90 分程度) 復習:課題での講評から次回制作での対策方法、紹介された作品やアーティストの調査 web や図書館・美術館) (各回 90 分程度)						
教材にかかわる情報	テキスト:特になし 参考書:特になし 参考資料:適宜資料配布						
担当者からのメッセージ等実務経験について	デザインとアートの違いを考えながら、様々な表現方法を実践し理解を深めてください。						

科目名	デザイン表現Ⅱ (2単位)	実技	専攻科 芸術表現専攻	後期	担当者	渡山 賢二(実務経験) (単独)	
ナンバリングコード	JA-S322-000						
修了要件	選択						
授業のテーマ	イラストデザインや多様な表現方法を実技(画材は要相談)を通して習得する。						
授業概要	基礎デッサン力(観察力・描写力)をベースに、多様な表現方法を実践を通して体験し、自己表現の探求方法を 実践・習得する。(表現は基本平面(アナログ)※デジタル表現は要相談)						
達成目標	学修成果:専門分野の知識・技能、創造力、リーダーシップ、変化への適応力					科目 DP : (3)	
		DP 番号	(1)	(2)	(3)	(4)	
	1. デザインとアートの理解			◎			
	2. 自己表現の探求方法の習得				◎	○	
	3. 様々な表現方法の実践とその習得				◎	○	
	4. 自分の制作物の客観的な意見を説明できる。		◎	○			
5. 期限内での課題制作の提出		○	◎		○		
履修条件・注意事項	使用画材は各自持参(着彩・鉛筆デッサン・木炭デッサン等)。デジタルツールの場合は要相談(紙など各自購入) 授業の実施方法:①面接授業のみ						
授業計画	1. デザインとイラストについて(目標 1,2) 2. 課題制作① 課題理解・エスキース・下書き(目標 3,4,5) 3. 課題制作① 制作・課題提出(目標 3,4,5) 4. 様々な表現方法について(目標 1,2) 5. 課題制作② 課題理解・エスキース・下書き(目標 3,4,5) 6. 課題制作② 制作・課題提出(目標 3,4,5) 7. 課題制作③ 課題理解・エスキース・下書き(目標 3,4,5) 8. 課題制作③ 制作・課題提出(目標 3,4,5) 9. 課題制作④ ②と③の講評、制作④の課題理解・エスキース・下書き(目標 3,4,5) 10. 課題制作④ 制作・課題提出(目標 3,4,5) 11. 課題制作⑤ 課題理解・エスキース・下書き(目標 3,4,5) 12. 課題制作⑤ 制作・課題提出(目標 3,4,5) 13. 課題制作⑥ ④と⑤の講評、制作⑥の課題理解・エスキース・下書き(目標 3,4,5) 14. 課題制作⑥ 制作・課題提出(目標 3,4,5) 15. 総合講評会						
アクティブ・ラーニング							
成績評価基準	①制作課題の評価(60%):期限内提出厳守、制作課題の完成度 ②授業への取り組み(40%):授業内レポート提出・その内容や制作への取組						
フィードバックの方法	講評・総合講評会での口頭でのフィードバック、資料配布						
時間外の学習について	予習:自分の好きな作品(ジャンル問わず)、制作したいものを答えられるようにする。(各回 45 分程度) 復習:課題での講評から次回制作での対策方法、紹介された作品やアーティストの調査 web や図書館・美術館 (各回 45 分程度)						
教材にかかわる情報	テキスト:特になし 参考書:特になし 参考資料:適宜資料配布						
担当者からのメッセージ等実務経験について	デザインとアート、イラストの違いを考えながら、様々な表現方法を実践し理解を深めてください。						

科目名	デザイン研究 I (2単位)	講義	専攻科 芸術表現専攻	前期	担当者	前田 和也(実務経験) (単独)	
ナンバリングコード	JA-S323-000						
修了要件	選択						
授業のテーマ	課題を自ら設定し、デザインで課題解決を図る。						
授業概要	調査に基づきテーマを設定し、テーマに沿った作品制作と、作品に関するプレゼンテーションを行う。						
達成目標	学修成果: 専門分野の知識・技能、創造力、リーダーシップ、変化への適応力					科目 DP : (3)	
		DP 番号	(1)	(2)	(3)	(4)	
	1. 地域や社会の課題を調査し、デザインで解決する課題を設定できる。				◎		
	2. デザインコンセプトを策定し、他者に伝えることができる。				◎		
	3. コンセプトに基づき、作品制作ができる。	○			◎	○	
4. 作品に関するプレゼンテーションができる。			◎				
履修条件・注意事項	授業の実施方法:①面接授業のみ						
授業計画	1. デザイン研究の意義 (目標 1) 2. 課題調査① (目標 1) 3. 課題調査② (目標 1) 4. 課題設定 (目標 1) 5. コンセプト検討 (目標 2) 6. コンセプトに関するプレゼンテーション (目標 2,4) 7. 作業計画の立案 (目標 3) 8. アイディアスケッチ (目標 3) 9. 作品制作① (目標 3) 10. 作品制作② (目標 3) 11. 作品制作③ (目標 3) 12. 作品制作④ (目標 3) 13. 作品制作⑤ (目標 3) 14. 作品のプレゼンテーション (目標 4) 15. 振り返り (目標 4)						
アクティブ・ラーニング	プレゼンテーション						
成績評価基準	①授業内レポート(50%):意欲・関心を測定 ②課題(25%):表現・技能を測定 ③プレゼンテーション(25%):思考・判断を測定						
フィードバックの方法	授業内レポートを返却						
時間外の学習について	予習:地域や社会の課題に目を向けて、解決方法を検討する(各回 90 分程度) 復習:授業を振り返り、対策と計画を立てる(各回 90 分程度)						
教材にかかわる情報	テキスト:特になし 参考書:特になし 参考資料:特になし						
担当者からのメッセージ等 実務経験について	課題についての質問や報告はメールにて。E-Mail: t0014@yamaguchi-jca.ac.jp デザイナー経験:いままでの業務経験から実践的なデザインのテクニックやデータの作成方法のコツを交えて話をします。						

科目名	デザイン研究Ⅱ (2単位)	講義	専攻科 芸術表現専攻	後期	担当者	前田 和也(実務経験) (単独)	
ナンバリングコード	JA-S324-000						
修了要件	選択						
授業のテーマ	課題を自ら設定し、デザインで課題解決を図る。						
授業概要	調査に基づきテーマを設定し、テーマに沿った作品制作と、作品に関するプレゼンテーションを行う。						
達成目標	学修成果: 専門分野の知識・技能、創造力、リーダーシップ、変化への適応力					科目 DP : (3)	
		DP 番号	(1)	(2)	(3)	(4)	
	1. 制作物に関する第三者評価を行う。				◎		
	2. 評価結果を分析し、改善策を提案する。	○			◎	○	
	3. 改善策に基づき、制作物の修正を行う。	○			◎	○	
4. 評価・分析結果に基づき、作品に関するプレゼンテーションができる。	○	◎					
履修条件・注意事項	授業の実施方法: ①面接授業のみ						
授業計画	1. デザイン評価の目的 (目標 1) 2. 評価方法の検討① (目標 1) 3. 評価方法の検討② (目標 1) 4. 評価環境の構築 (目標 1) 5. 評価計画 (目標 1) 6. 評価実施 (目標 2) 7. 評価結果の分析 (目標 2) 8. 改善策の提案 (目標 2) 9. 制作① (目標 3) 10. 制作② (目標 3) 11. 制作③ (目標 3) 12. 制作④ (目標 3) 13. 制作⑤ (目標 3) 14. 作品のプレゼンテーション (目標 4) 15. 振り返り (目標 4)						
アクティブ・ラーニング	プレゼンテーション						
成績評価基準	①授業内レポート(50%): 意欲・関心を測定 ②課題(25%): 表現・技能を測定 ③プレゼンテーション(25%): 思考・判断を測定						
フィードバックの方法	授業内レポートを返却						
時間外の学習について	予習: 地域や社会の課題に目を向けて、解決方法を検討する(各回 90 分程度) 復習: 授業を振り返り、対策と計画を立てる(各回 90 程度)						
教材にかかわる情報	テキスト: 特になし 参考書: 特になし 参考資料: 特になし						
担当者からのメッセージ等実務経験について	課題についての質問や報告はメールにて。E-Mail: t0014@yamaguchi-jca.ac.jp デザイナー経験: いままでの業務経験から実践的なデザインのテクニックやデータの作成方法のコツを交えて話をします。						

科目名	Web デザイン特論 (2単位)	演習	専攻科 芸術表現専攻	前期	担当者	前田 和也(実務経験) (単独)	
ナンバリングコード	JA-S325-000						
修了要件	選択						
授業のテーマ	Web で使うプログラムの理解と活用						
授業概要	Web でよく使われている PHP と MySQL を使い、サーバーサイドで動作するプログラムを組み立て、ウェブアプリケーションを作成してみる。						
達成目標	学修成果: 専門分野の知識・技能、創造力、リーダーシップ力、変化への適応力					科目 DP : (3)	
		DP 番号	(1)	(2)	(3)	(4)	
	1. Web サーバー、データベースサーバーなどの仕組みの理解			○	◎		
	2. Web 上で動作するプログラムの種類や特性を理解			○	◎		
	3. JavaScript によるプログラミングを習得				◎	○	
	4. PHP プログラミングを習得				◎	○	
5. SQL を使ったデータベース操作を習得							
履修条件・注意事項	HTML や CSS などウェブページを表現するスキルがある程度理解できている必要があります。 授業の実施方法: ①面接授業のみ						
授業計画	1. Web プログラミングとは(ガイダンス) (目標 1,2) 2. Web サーバーからコンテンツが届く仕組み (目標 1,2) 3. プログラム開発環境を整える 1 (目標 1,2) 4. プログラム開発環境を整える 2 (目標 2,3) 5. JavaScript と Ajax (目標 2,3) 6. PHP プログラムの基本 (目標 2,4) 7. PHP プログラムを作成 1 (目標 4) 8. PHP プログラムを作成 2 (目標 4) 9. PHP プログラムを作成 3 (目標 4) 10. データベースとは (目標 5) 11. MySQL の操作 (目標 5) 12. SQL でデータ操作 (目標 5) 13. プログラムで DB を操作する (目標 4,5) 14. フォームから DB に登録するプログラムを制作 1 (目標 4,5) 15. フォームから DB に登録するプログラムを制作 1 (目標 4,5)						
アクティブ・ラーニング							
成績評価基準	①制作課題(75%): 思考・判断・表現技術を測定 ②授業中の取組姿勢(25%): 関心・意欲の測定						
フィードバックの方法	進行の段階ごとに、授業にて受講者と作品を共有しながらフィードバックする						
時間外の学習について	予習: 次回講義内容について調べる。(各回 90 分) 復習: 授業で出した課題について進めておく。(各回 90 分)						
教材にかかわる情報	テキスト: 特になし 参考書: 特になし 参考資料: 特になし						
担当者からのメッセージ等実務経験について	課題についての質問や報告はメールにて。E-Mail: t0014@yamaguchi-jca.ac.jp デザイナー経験: いままでの業務経験から実践的なコーディングのテクニックやプログラムの作成方法のコツを交えて話をします。						

科目名	演奏実技研究 I (2単位)	実技	専攻科 芸術表現専攻	前期	担当者	小野 隆洋(実務経験) 他 (複数)
ナンバリングコード	JA-S341-000					
修了要件	選択					
授業のテーマ	作曲に関わる背景の研究、楽曲の理解、高度な演奏技術の向上					
授業概要	各楽器、各声種のレパートリーから様々な楽曲を選択し、多くの作品に触れ、音楽的感性を磨き、演奏能力の向上を図る。					
達成目標	学修成果: 専門分野の知識・技能、創造力、リーダーシップ、変化への適応力				科目 DP : (3)	
		DP 番号	(1)	(2)	(3)	(4)
	1. 楽曲に対する練習方法を構築できる。		○		◎	○
	2. 作品の解釈について積極的に考えることができる。			◎	○	
	3. 作品ごとに時代別による演奏スタイルの違いを理解できる。				◎	○
	4. 楽曲の全体的な構成の把握と音楽の作り方について理解できる。				◎	○
5. 演奏技術を向上させる。		○		◎	○	
履修条件・注意事項	授業の実施方法: ①面接授業のみ					
授業計画	<p>1. 各楽器、各声種の授業内容、目標への理解 (目標 1)</p> <p>2. 演奏楽曲の選曲 (目標 2,3)</p> <p>3. 作品の背景、作曲家についての研究 (目標 2,3)</p> <p>4. 楽曲分析 (目標 1)</p> <p>5. 作品の練習方法 (目標 1)</p> <p>6. 演奏法と解釈 (目標 2,3)</p> <p>7. 高度な演奏技術についての研究 (目標 5)</p> <p>8. 楽曲の実技実践(目標 1,3,5)</p> <p>9. 楽曲の実技実践(伴奏も含む) (目標 1,3,5)</p> <p>10. 合わせにおけるアンサンブルについて (目標 1,4,5)</p> <p>11. 試験曲の選定 (目標 1,3,4,5)</p> <p>12. 試験曲の実技練習 (目標 1,3,4,5)</p> <p>13. 試験曲の実技練習(伴奏合わせも含む) (目標 1,3,4,5)</p> <p>14. 試験曲の公开发表、分析、ディスカッション (目標 1,3,4,5)</p> <p>15. 試験曲の実技練習(伴奏合わせも含む) (目標 1,3,4,5)</p> <p>◎定期試験</p>					
アクティブ・ラーニング	プレゼンテーション、ディスカッション					
成績評価基準	<p>① 定期試験(50%): 学んだ技術を再現できる。</p> <p>② 授業態度・授業への参加度(25%): 積極的に参加、質問する。</p> <p>③ 課題(25%): 課題に意欲的に取り組む。</p>					
フィードバックの方法	各回のレッスンの際に課題を設定して、個別に助言を行う。					
時間外の学習について	<p>予習: 課題を各自練習してレッスンに備える。(各回 90 分程度)</p> <p>復習: レッスンで指摘された助言について練習する。(各回 90 分程度)</p>					
教材にかかわる情報	<p>テキスト: 特になし</p> <p>参考書: 特になし</p> <p>参考資料: 各楽器、各声種の練習曲、楽曲</p>					
担当者からのメッセージ等実務経験について	<p>メッセージ: 多様な演奏技術を学び、多くのレパートリー曲に挑みます。</p> <p>演奏家経験: 国内外の音楽事情、実践的な演奏法について講義します。</p>					

科目名	演奏実技研究Ⅱ (2単位)	実技	専攻科 芸術表現専攻	後期	担当者	小野 隆洋(実務経験) 他 (複数)
ナンバリングコード	JA-S342-000					
修了要件	選択					
授業のテーマ	作曲に関わる背景の研究、楽曲の分析、高度な演奏技術と表現力の向上					
授業概要	各楽器、各声種のレパートリーから様々な楽曲を選択し、多くの作品に触れ、音楽的感性を磨き、演奏能力の向上を図る。					
達成目標	学修成果: 専門分野の知識・技能、創造力、リーダーシップ、変化への適応力				科目 DP : (3)	
		DP 番号	(1)	(2)	(3)	(4)
	1. 楽曲分析と各楽曲に対する練習方法を確立できる。		○		◎	○
	2. 作品の解釈にあたり、作曲された時代背景についても考察できる。			◎	○	
	3. 作品ごとに時代別による演奏スタイルの違いを修得する。				◎	○
	4. 楽曲の全体的な構成の把握と音楽の作り方について修得する。				◎	○
5. 演奏技術と表現力を向上させる。		○		◎	○	
履修条件・注意事項	授業の実施方法: ①面接授業のみ					
授業計画	1. 各楽器、各声種のレッスン内容、目標への理解 (目標 1) 2. 演奏楽曲の選曲 (目標 2,3) 3. 作品の背景、作曲家についての研究 (目標 2,3) 4. 楽曲分析 (目標 1) 5. 作品の練習方法 (目標 1) 6. 演奏法と解釈 (目標 2,3) 7. 高度な演奏技術についての研究 (目標 5) 8. 楽曲の実技実践(目標 1,3,5) 9. 楽曲の実技実践(伴奏も含む) (目標 1,3,5) 10. 合わせにおけるアンサンブルについて (目標 1,4,5) 11. 修了演奏曲の選定 (目標 1,3,4,5) 12. 修了演奏曲の実技練習 (目標 1,3,4,5) 13. 修了演奏曲の実技練習(伴奏合わせも含む) (目標 1,3,4,5) 14. 修了演奏曲の公开发表、分析、ディスカッション (目標 1,3,4,5) 15. 修了演奏曲の実技練習(伴奏合わせも含む) (目標 1,3,4,5) ◎定期試験					
アクティブ・ラーニング	プレゼンテーション、ディスカッション					
成績評価基準	① 定期試験(50%): 学んだ技術を再現できる。 ② 授業態度・授業への参加度(25%): 積極的に参加、質問する。 ③ 課題(25%): 課題に意欲的に取り組む。					
フィードバックの方法	各回のレッスンの際に課題を設定して、個別に助言を行う。					
時間外の学習について	予習: 課題を各自練習してレッスンに備える。(各回 90 分程度) 復習: レッスンで指摘された助言について練習する。(各回 90 分程度)					
教材にかかわる情報	テキスト: 特になし 参考書: 特になし 参考資料: 各楽器、各声種の練習曲、楽曲					
担当者からのメッセージ等実務経験について	メッセージ: 多様な演奏技術を学び、多くのレパートリー曲に挑みます。 演奏家経験: 国内外の音楽事情、実践的な演奏法について講義します。					

科目名	楽曲分析 (2単位)	演習	専攻科 芸術表現専攻	後期	担当者	田中 照通 (単独)	
ナンバリングコード	JA-S343-000						
修了要件	選択						
授業のテーマ	音楽作品を理解、解釈するために行う分析の方法						
授業概要	音楽作品は各様式(民族、時代、個人様式)が反映されるのだが、ここでは作曲家がどのように音楽を作品として構成しているかを、音楽の構造を分析することで、その音楽の魅力をさぐり、自らの音楽解釈ができるようにする。これは修了研究に有役なものとなる。						
達成目標	学修成果:専門分野の知識・技能、創造力、リーダーシップ、変化への適応力					科目 DP : (3)	
		DP 番号	(1)	(2)	(3)	(4)	
	1. 分析について色々な視点と観点を持つ。				◎		
	2. 分析に必要な知識と技術を身につける。				◎		
3. 作品理解(解釈)のためにそれらが統合でき、音楽表現について考察できる。				◎			
履修条件・注意事項	授業の実施方法:①面接授業のみ						
授業計画	1 音楽を分析するということとは?卒業研究演奏作品について(1)(目標 1) 2 音楽を分析するということとは?卒業研究演奏作品について(2)(目標 1) 3 音素材の分析(目標 1,2) 4 主題とモチーフの分析~主題の展開(目標 1,2) 5 旋律と和声(目標 1,2) 6 和声のみの音楽分析(目標 1,2) 7 調の持つ意味~転調(目標 1,2) 8 長調短調以外の音楽(1)(目標 1,2) 9 長調短調以外の音楽(2)(目標 1,2) 10 言葉と音楽(目標 1,2,3) 11 形式の分析(目標 1,2,3) 12 音楽の緊張と弛緩(エネルギーの推移)、アーティキュレーション(目標 1,2,3) 13 音楽の内容、描写、象徴(目標 1,2,3) 14 修了研究に向けて(1)(目標 1,2,3) 15 修了研究に向けて(2)(目標 1,2,3)						
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、グループワーク						
成績評価基準	①レポート(60%):知識・理解を測定・学んだ技法を使って分析できる。根拠を明確にして自説が述べられている。 ②宿題(20%):思考・判断、関心・意欲を測定・学んだ技法を使って分析できる。根拠を明確にして自説が述べられている。 ③授業態度・参加度(20%):思考・判断、関心・意欲、態度を測定・授業中に積極的に発言する。						
フィードバックの方法	レポート提出時に評価会を行う。						
時間外の学習について	予習:分析課題を実施してくること。 復習:同上 (予復習を合わせて各回 90 分程度)						
教材にかかわる情報	テキスト:特になし 参考書:特になし 参考資料:その都度プリントを配布						
担当者からのメッセージ等 実務経験について							

科目名	演奏特論 (2単位)	演習	専攻科 芸術表現専攻	後期	担当者	小野 隆洋(実務経験)	
ナンバリングコード	JA-S344-000						
修了要件	選択						
授業のテーマ	各時代における音楽作品について解釈を深める。 各楽器における演奏法、及び表現技法について理解を深める。						
授業概要	音楽作品を取り上げ、作曲家の作品解釈、楽器理解に基づく演奏法、及び表現技法について考察する。 具体的に作品を弾いたり、CDやDVDで演奏を視聴したりして、楽曲の解釈、表現方法を考察する。						
達成目標	学修成果: 専門分野の知識・技能、創造力、リーダーシップ、変化への適応力					科目 DP : (3)	
		DP 番号	(1)	(2)	(3)	(4)	
	1. 作曲者の生い立ち、時代背景について理解する。		○	○	◎		
	2. 各時代の演奏様式について理解する。				◎	○	
	3. 各楽器の演奏法について修得する。				◎	○	
4. 作品の表現技法を修得する。		○		◎	○		
履修条件・注意事項	授業の実施方法: ①面接授業のみ						
授業計画	1. バロック時代の作品(目標 1) 2. バロック時代の楽器と演奏法(目標 2,3) 3. バロック時代における装飾音(目標 3,4) 4. 古典派の作品と演奏解釈(目標 1,2) 5. 音色と強弱の解釈(目標 2,3) 6. 鍵盤楽器の特徴と演奏法(目標 2,3) 7. 管弦楽の特徴と演奏法(目標 3,4) 8. ロマン派の作品(目標 1,2,3) 9. 近代現代の作品(目標 1,2,4) 10. ペアワーク、プレゼンテーション(目標 1,2,4) 11. 初見奏法と暗譜奏法(目標 3,4) 12. 楽器の発達と作品の関係性(目標 3,4) 13. 作品の編曲(目標 1,2) 14. 各時代の演奏様式(目標 2,4) 15. 演奏による表現技法、演奏指導(目標 2,3,4)						
アクティブ・ラーニング	ペアワーク、プレゼンテーション						
成績評価基準	①授業への関心・意欲(50%): 授業内レポートによって授業への関心・意欲を測定 ②技能・表現(50%): 演奏によって技能・表現を測定						
フィードバックの方法	授業内レポート等の返却により実施する。						
時間外の学習について	予習: 配布した資料を読んでおくこと(各回 90 分程度) 復習: 授業で学んだ作品の解釈について復習しておくこと(各回 90 分程度)						
教材にかかわる情報	テキスト: 特になし 参考書: 特になし 参考資料: 適宜配布						
担当者からのメッセージ等実務経験について	演奏家経験: 国内外の音楽事情、実践的な演奏法について講義します。						

科目名	即興演奏研究 (2単位)	演習	専攻科 芸術表現専攻	前期	担当者	佐田尾 圭子(実務経験) (単独)	
ナンバリングコード	JA-S345-000						
修了要件	選択						
授業のテーマ	音楽分野の専門的知識や技能を習得し、指導者認定グレード4級以上の取得を目指し、多様なコード進行や様式などを身につけ、よりレベルの高度な地域指導者としての能力を養う。						
授業概要	本演習では、「即興グレードⅠ、Ⅱ」を基礎とする即興演奏における変奏、モチーフからの楽曲創作を短時間で表現できる技法をつける。						
達成目標	学修成果: 専門分野の知識・技能、創造力、リーダーシップ力、変化への適応力					科目 DP : (3)	
		DP 番号	(1)	(2)	(3)	(4)	
	1. Ⅱ、Ⅲまでの長調、短調のコードネームを定着する。				◎		
	2. コード進行のパターンを習得する。				◎		
	3. 課題の理解と表現法を習得する。				◎		
	4. 課題のポイントに則したアレンジの方法を習得する。				◎	○	
5. 即座に表現できる演奏技術を習得する。				○	◎		
履修条件・注意事項	授業の実施方法: ①面接授業のみ						
授業計画	1. カデンツの実践 (目標 1) 2. コード進行とベース進行 (目標 1,2) 3. コード付けの方法 (目標 1,2) 4. 代理コード・テンションコードの習得 (目標 1,2) 5. 初見演奏(目標 3,4) 6. 変奏課題の実習(2)(目標 3,4) 7. 課題発表とディスカッション (目標 3,4) 8. モチーフ課題の構成 (目標 2) 9. モチーフ課題のコード進行 (目標 2,3) 10. 効果的な伴奏と音域 (目標 3) 11. グレード試験対策(1)(目標 3,4,5) 12. グレード試験対策(2)(目標 3,4,5) 13. グレード試験対策(3)(目標 3,4,5) 14. 模擬試験とディスカッション (目標 3,4,5) 15. まとめと、確認テスト (目標 3,4,5) ◎定期試験						
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、プレゼンテーション						
成績評価基準	①課題発表、確認テスト(40%):グレード4級レベルの問題に回答できる ②授業での取り組み(30%):積極的な考察力・発見力で課題に取り組む ③課題(30%):教えた技法を再現できる						
フィードバックの方法	毎回の授業で出された課題について、次回の授業で発表し、個別に助言を行う。						
時間外の学習について	予習:コード進行と初見演奏 (毎回30分以上) 復習:授業で出された課題のふり返り (各回60分以上)						
教材にかかわる情報	テキスト:各回に適宜プリントを配布する。 参考書:特になし 参考資料等:特になし						
担当者からのメッセージ等実務経験について	ヤマハシステム講師として上級科講座を担当した。						

科目名	メディアアート研究 (2単位)	演習	専攻科 芸術表現専攻	前期	担当者	澄重 成記 矢野 節(実務経験) (複数)
ナンバリングコード	JA-S381-000					
修了要件	選択					
授業のテーマ	メディアアート作品の制作を通して、リーダーシップ、コミュニケーション能力、専門分野の基礎的知識・技能を身につける。					
授業概要	学生が主体となって、デザインと音楽を用いた創造性豊かなメディアアート作品を協働して制作し、発表を行う。					
達成目標	学修成果: 専門分野の知識・技能、創造力、課題解決力、リーダーシップ、 変化への適応力	科目 DP : (4)				
		DP 番号	(1)	(2)	(3)	(4)
	1. メディアアートについて深く理解する。				◎	
	2. 作品制作に必要なソフトウェア (Adobe After Effects 等) の操作方法を修得する。				◎	
	3. 本学科で学んだことを活かして、主体的にコンテンツ制作ができる。	○	○	◎		
	4. 情報技術と映像を活用して、観覧者が楽しめる空間をつくる。				◎	
5. リーダーとしてグループワークに取り組み、変化への適応力を身につける。	◎	◎			○	
履修条件・注意事項	授業の実施方法: ①面接授業のみ					
授業計画	1. ガイダンス(目標 1) 2・3. 制作する作品について、具体的な内容を検討する(目標 1,3,5) 4・5. 表現手法、及び構成について、検討する(目標 1,3,5) 5・6. 役割分担、制作スケジュールを決定する(目標 1,5) 7・8. 必要なソフトウェアの操作修得(目標 2) 9~11. 絵コンテ制作(目標 4) 12~14. 作品制作(目標 2,4) 15. 中間発表(目標 5) 16~24. 作品制作(目標 2,4) 25. 会場設営、準備計画を立てる(目標 1~5) 26. リハーサル(目標 1~5) 27. 作品の修正(目標 1~4) 28. 会場設営、準備を行う(目標 1~4) 29. 発表または展示(目標 1~5) 30. 反省、次年度に向けての課題(目標 4,5)					
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、グループワーク					
成績評価基準	①授業態度(40%) : 関心・意欲・態度を測定 ②グループ活動(30%) : グループ活動における貢献度、及び他者との協働性を測定 ③授業内での制作作品(30%) : 専門分野における知識・技能を測定					
フィードバックの方法	各回の成果物について、口頭によるフィードバックを行う。					
時間外の学習について	予習: 次回の授業の準備、作品制作(各回 90分) 復習: 各回で学んだことの理解を深め、応用できるように練習する(各回 90分)					
教材にかかわる情報	テキスト: 特になし 参考書: 特になし 参考資料等: 特になし					
担当者からのメッセージ等実務経験について	協働して1つの作品を作り上げていくことの難しさ、楽しさを体験してもらいたと思います。					

科目名	修了研究 (4単位)	演習	専攻科 芸術表現専攻	前後期	担当者	学科長 他 (複数担当)
ナンバリングコード	JA-S382-000					
修了要件	必修					
授業のテーマ	学びの集大成として、修了制作、修了研究、修了演奏に取り組み、効果的な展示や発表を行う。					
授業概要	各自が研究テーマを設定し、研究テーマについての構想や計画、予備調査、資料の収集、及び、発表の表現方法等について各指導教員と密接な連携を図り、演奏や制作、論文執筆、発表を行う。					
達成目標	学修成果: 専門分野の知識・技能、創造力、課題解決力、リーダーシップ、変化への適応力				科目 DP : (4)	
		DP 番号	(1)	(2)	(3)	(4)
	1. 研究テーマの設定ができる。				◎	○
	2. 各自のテーマに関連する資料収集、調査・作業計画の立案ができる。				◎	○
	3. 各自のテーマについて論文を書くことができる。		○		◎	○
	4. テーマに沿った作品制作、演奏、効果的な発表、展示ができる。	○			◎	○
5. 他者と協働して、展示会や演奏会ができる。	○	○			◎	
履修条件・注意事項	授業の実施方法: ①面接授業のみ					
授業計画	前期)			後期)		
	1. 修了研究の意義 <全体会> 2. 研究テーマの検討 3. 研究テーマの決定 4. 研究テーマに関連する資料収集、作業計画 1 5. 研究テーマに関連する資料収集、作業計画 2 6. 研究テーマに関連する資料収集、作業計画 3 7. 研究テーマの内容調査と方法 1 8. 研究テーマの内容調査と方法 2 9. 研究テーマの内容調査と方法 3 10. 研究テーマの内容調査と方法 4 11. 研究テーマの内容確認 1 12. 研究テーマの内容確認 2 13. 研究テーマの内容確認 3 14. 中間発表の準備 15. 中間発表 <全体会> 1~15 の全ての回で(目標 1,2,3)			1. 修了制作展・演奏会の目的 <全体会> 2. 研究テーマを深める 1 3. 研究テーマを深める 2 4. 研究テーマを深める 3 5. 研究内容、制作中間確認 1 6. 研究内容、制作中間確認 2 7. 研究内容、制作中間確認 3 8. 研究内容、制作発表に向けての資料、進捗状況確認 1 9. 研究内容、制作発表に向けての資料、進捗状況確認 2 10. 研究内容、制作発表に向けての資料、進捗状況確認 3 11. 研究内容、制作発表に向けての資料、進捗状況確認 4 12. 制作展・演奏会の準備<全体会> 13. 制作展・演奏会の準備 14. 制作展・演奏会の準備 15. 制作展・演奏会の準備 定期試験(修了研究発表会) 1~15 の全ての回で(目標 2,3,4,5)		
アクティブ・ラーニング	プレゼンテーション					
成績評価基準	①中間発表(20%): 表現・技能を測定 ②授業態度(30%): 学習への関心・意欲・思考力、協働性等を測定 ③研究論文・演奏・作品等の完成度(50%): 知識・理解、技能・表現を測定					
フィードバックの方法	課題等の出来具合等を随時学生に伝え、次回以降の課題に役立てる					
時間外の学習について	予習: テーマに関する社会動向や作品に関心・意欲を持ち、調査・分析を行う。各回 90 分程度 復習: 授業で得たアドバイスを基に研究や制作、演奏を行い、完成度を高める。各回 90 分程度					
教材にかかわる情報	テキスト: 特になし 参考書: 特になし 参考資料: 随時、プリント等で配布					
担当者からのメッセージ等実務経験について						

〒754-0032 山口県山口市小郡みらい町一丁目7番1号

電 話(083)972-2880

F A X(083)972-4145

URL <https://www.yamaguchi-jca.ac.jp>